

第1回 武庫川河川整備地域懇談会 議事骨子

第1回武庫川河川整備地域懇談会に先立つ現地視察

■視察概要

- ・開催日時：平成23年8月25日（木） 13:00～15:00
- ・視察場所：国道43号南 高水敷切下部→潮止堰 阪神電鉄狭窄部→旧国道南 高水敷切下部
- ・委員出席8名

■視察時意見

○西宮市側視察時意見と県の回答

- 委員：目標とする流量に対して、今回の河川整備でどれくらい流量が増えるのか示して欲しい。
事務局：約3割である。（旧国道付近で現況流下能力2,600 m³/s を目標流量3,300m³/s に整備）

○潮止堰視察時意見

- 委員：堰がない時代は水枯れしていた。淡水確保のため作らせた経緯がある。潮止堰が出来たので井戸や樹木の根が確保されている。撤去については、堰が作られた経緯を検証する必要があるのではないか。潮止堰の撤去、河道の掘削により、地下水位低下や塩水遡上をまねき、高水敷樹木の生育環境が改変されるのではないかと。

第1回武庫川河川整備地域懇談会

■会議概要

- ・開催日時：平成23年8月25日（木） 15:00～17:00
- ・開催場所：尼崎市大庄公民館 3階 ホール
- ・委員出席8名、一般傍聴者5名、報道3社（NHK・毎日新聞・神戸新聞）
電話取材1社（日本経済新聞）

■懇談会

1) 懇談会設置要綱

2) 懇談会運営要領

3) 懇談会公開要領

- ・懇談会設置要領要綱、懇談会運営要領、懇談会公開要領について、委員から承認を得た。

4) 委員長選任

- ・委員の互選により、委員長として大石委員を選任した。

5) 懇談会の内容と今後のスケジュール

- 委員：地域住民にとって関心が高い問題であり、今後様々な意見が寄せられることが予想され

るため、懇談会の開催回数を3回と限定することは難しいのではないかと。

事務局：審議の状況に応じて4回以降の懇談会を開催したい。

委員：懇談会が継続している間は、河道改修工事には着手しないという認識でよいか。工事に着手した場合は、住民運動として提訴することもあり得る。

事務局：河道改修工事には着工しない。ただし、過年度から実施している堤防強化については引き続き実施していきたい。

委員：資料（チラシ）には、9月以降に地域説明会が行われる旨が記載されている。地域説明会で挙げた意見については、懇談会へ報告してもらえるのか。

事務局：地域説明会での意見は懇談会へ報告する。

6) 武庫川の川づくり

委員：洪水だけでなく、津波による災害も地域住民にとっては関心の高い問題である。津波災害について懇談会で取り上げてほしい。

委員長：津波災害に関心が高いことは理解するが、設置要綱に記載のとおり、本懇談会では河川敷利用のあり方を中心に議論したい。

委員：津波対策も考えるべきだ。

事務局：中央防災会議における議論の内容、兵庫県で想定している津波災害については、資料をそろえた上で次回の懇談会で説明したい。また、懇談会での津波災害の扱いについては、事務局・委員長で整理の上、提案することとしたい。

委員：河道改修で河床掘削や低水路拡幅を行うため、河川の断面が大きくなる。上流から下流に流れる洪水とは異なり、津波は下流から上流へと遡上する。河川断面を大きくして、川の間口を大きくすれば、津波の被害を助長しないか。

委員：河道改修と津波との関係について、次回の懇談会で説明して頂きたい。

事務局：次回に説明する。

7) 武庫川下流部の概要

委員：地元に対して説明するため、流路を拡幅する箇所（地域にとって関心が高い箇所）を部分的に拡大した図面を用意して頂きたい。

事務局：図面が用意でき次第、郵送にて配布する。

委員：干潟創出などの河川環境の問題は、懇談会の時間が限られている中では、答えのない大きな問題である。3回の懇談会では議論しきれないではないか。

委員長：本懇談会では、個別の疑問点に対して事務局・学識者より資料・データを示し、これを基にした議論を行いたい。

委員：現在武庫川河川敷にはホームレスが暮らしており、河道改修によって高水敷が狭くなることにより、こうした人々と河川敷を利用する地域住民の距離が近くなり、トラブルの発生が懸念される。事業を進めるにあたっては、こうしたホームレスや不法占用の問題も考慮すべきである。

委員：そのとおり。ホームレスの人権のため、住民運動による反対行動もあり得る。

委員：スポーツ利用の観点では、横断方向の利用スペースは縮小するものの、縦断方向の利用は継続できるため、尼崎側については大きな影響はないように思われる。

委員：過去に比べると、武庫川の親水性は低下していると感じる。河道改修にあたっては、親水性の回復も考えるべきである。

委員：我々の地域では、ダムによる治水を期待していた。今回の整備計画でダム建設がされないならば、地元利用者によく情報を伝えなければならない。我々も協力していく。

(一般傍聴者意見)

傍聴者：潮止堰を撤去することで、大阪湾の汚れた水が遡上してくるのではないかと懸念している。河川の水質維持の観点では、潮止堰はあった方が良いように思う。

8) その他

- ・第2回懇談会のスケジュール、議事録の確認方法

9) 閉会

以上